

若手会員の会 活動報告

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jws/welnet/>

(若手会員の会からのお知らせはホームページにも掲載しています)

IMTCE2008 出席報告

若手会員の会運営委員会委員 森 裕章 (大阪大学)

Report: IMTCE2008

去る8月24日(日)~27日(水),クアラルンプール(マレーシア)のPARKROYAL HOTELにてIMTCE2008が開催された。この国際会議は6TH INTERNATIONAL MATERIALS TECHNOLOGY CONFERENCE & EXHIBITIONの中のイベントの一つとして開催され、テーマとして“NEW TECHNOLOGIES IN MATERIALS AND MINERALS INDUSTRY TOWARDS A SUSTAINABLE FUTURE”と掲げられたものであった。日本からはAWF関連のメンバーとして日本溶接協会の野村博一氏、佐藤正晴氏、東工大の高橋邦夫先生が参加されるとともに、講演者として阪大から前田将克先生、宮坂史和先生と私(森)の3名が出席した。日本からは下記の4件の講演がエントリーされ、それぞれ野村氏、前田先生、宮坂先生、森が発表した(写真1,2参照)。

1. Certification Systems Of Welding Personnel In Japan - Certification activity in Asian countries - by Kunio Takahashi, Hirokazu Nomura & Masaharu Sato

2. Interfacial Structure between Gallium Nitride and Metallic Deposition Films by Masakatsu Maeda, Hiroo Hatakawa and Yasuo Takahashi

3. Development of Hollow Cathode Arc Welding in Vacuum by Fumikazu Miyasaka, Daisuke Yamabe, Akira Yamato, Shinichiro Shobako, Takayoshi Ohji

4. Development of Laser Brazing Technique to Join Dissimilar Materials of Ti Alloys and Stainless Steel by Hiroaki Mori, Miku Morita, Kazuyoshi Saida and Kazutoshi Nishimoto

初日の24日(日)はゴルフトーナメント、2日目(25日(月))はテクニカルツアーとバンケットで、結局のところ会議自体は、3日目(26日(火))からが本番であった。(ちなみに、日本からの参加者はバンケットから参加。)3日目の午前中に展示会が開催され、同日午後2時から講演が始まり、翌日(27日(水))の夕方まで続けられた。講演は特別講演が2件、一般講演が85件あり、そのうち溶接関連が8件(日本からの3件を含む)であった。(講演タイトルに溶接・接合関連の単語が入っていないとみなされたためか、前田先生のご発表だけ、材料開発のセッションに入れられていた。)各講演に対する質疑応答は比較的活発であり、座長が苦勞するような様子はあまり見受けられなかった。

ここで、マレーシアらしいエピソードを一つ。さすがに国教がイスラム教となっている国だけあって、バンケットではアルコール類が全く出ず、主催者であるIMM (Institute of Materials Malaysia)の会長や来賓の挨拶の後に「乾杯」の無いパーティーというのも、ある意味とても新鮮であった。(終了後、街に繰り出したのは言うまでもない。)

会場となったホテルは市街地にあり、周囲には大型のショッピングモールが林立していて、食事やショッピング

グには事欠かないロケーションであった(写真3, 4参照)。しかし、折悪しく雨季であったため、外出して豪雨により足止めをくうことが何度かあった。熱帯に属するだけあって同地域のスコールは半端ではなく、写真5に見られるとおり、まさにバケツをひっくり返したような雨が降る。とても傘では防げず、傘をさして歩く人もいない。皆があきらめて小降りになるまで雨宿りしている。ただし、長時間降り続くことは無く、せいぜい小一時間、長くても数時間程度で傘をさして歩ける程度にはなる。それまでは、ショッピングモールをうろうろするか、喫茶店で時間をつぶすなどして何とかするしかなかった。この雨については、自他共に認める“雨男”である前田先生が熱帯にてパワーアップし、集中豪雨を降らせたとも考えられる。外を歩いていて“いきなり”あるいはショッピングモールで買い物してホテルに戻ろうとした時など、少なくとも出掛けるときには全く降雨の気配すらしない状況で、突然豪雨に見舞われたのには、さすがに言葉を失った。外出時に前田先生と一緒でなかった場合、確かに雨は降らなかった。

マレーシアは年間を通じて平均気温が約20℃と温暖(というか、かなり“暑い”)な国であり、ネクタイを締めてスーツを着て外を歩くのには閉口させられるが、現地の皆さんが着ていた民族衣装(BAJU MELAYU: スタンドカラーのゆったりした上衣とズボン)で過ごすのであれば、快適かもしれない。とにかく、レインコート以外のコートは不要だと思われる。食事も安くて美味しく、大きなフライドチキンにサラダやスープ、パンが付

いて15リンギ(1リンギ=約30円)という価格であった。美味かつ十分に満腹になる量であった(写真6参照)。ただし、同時に買ったビールが16リンギすることがわかったとき、イスラム教の国に来たことをあらためて実感させられた。(アルコールは“外国人用(?)”であり、観光客価格でも設定されているかのように感じられた。)また、日本国内でもよく見かける種々のファーストフード店では、商品の設定価格は決して安くはなかった。

全般的にマレーシアの人々は、皆とても親切であり、友好的であると感じた。また、会議が開催されたホテルでお会いした日本人女性のコンシェルジュの方(失礼ながらお名前は失念)にお聞きしたところ、クアラルンプール市内だけでも1万人程度の日本人が働いているとのことで、日本語が通じることもめずらしくなかった。また、偶然ではあるが、同ホテルの近くの巨大な吹抜けを持つショッピングモールで日本食フェアを開催していたことから、日本に対する関心の高さがうかがえた(写真7, 8参照)。これらのことを総合すると、マレーシアは日本人にとって気軽に訪問するには比較的快適な地であるといえる。ただし、その際は必ず雨季をはずすことをお奨めする。

最後に、今回の我々の渡航に際し、ご支援・ご協力いただいた溶接学会(若手会員の会、グローバルネットワーク形成委員会を含む)および日本溶接協会の関係各位に対し、この場をお借りして心より感謝申し上げます次第である。



写真1 講演風景(その1:野村氏)



写真2 講演風景(その2:宮坂先生)



写真3 ホテルの部屋の窓から市街地を望む（その1）



写真4 ホテルの部屋の窓から市街地を望む
（その2：右端に見えるのはKLタワー）



写真5 スコール（雨宿り中のお店の店先にて）



写真6 フライドチキン



写真7 巨大な吹抜けを持つショッピングモール
（中でジェットコースターが走行）



写真8 日本食フェア